



アイブラリー通信



移植コーディネーターとは
移植コーディネーター 看護師長：石橋ひろ子

看護という仕事を通して、私が一番大切に思っていることは、本人の気持ちを尊重することです。私は人と向き合うとき「本当のお気持ちを聴かせて下さい」という気持ちでお話を伺います。

臓器移植法が改正されて、ご本人が拒否の意思表示をされていない限り、ご家族が臓器提供する・しないを決めることになり、苦しい決断を迫られます。どんな選択をしても、これでよかったのか、本人はどうしたかただろう、という迷いや苦悩が後々まで続くのではないかと思います。

臓器提供の意思表示は、臓器提供意思表示カード、健康保険証の裏、運転免許証の裏、マイナンバーカード、インターネットなど身近なものへ記載できるようになりました。ご自分の気持ちを大切に、そしてもしもの時ご家族の苦悩が軽くなるように、ぜひお一人お一人が意思表示をされ、ご家族と話し合ってくださいと思います。臓器提供を「してもいい」「したくない」どちらもご本人の意思を尊重することで、心と体が一つにつながると思います。

臓器移植は、病気や事故などである臓器が十分働かなくなった方へ、他の方の健康な臓器を移植するという医療です。

医療者は、患者さんの救命に最善を尽くしますが、現在の医療でも救えない命があります。終末期を迎えるとき、看取りの一つとして臓器提供があるということをお話させていただくことがあります。そんなときに寄り添えるコーディネーターでありたいと思います。

平成28年 第4回健康情報室ミニセミナー開催報告

平成28年10月5日 摂食・嚥下障害看護認定看護師によるミニセミナー「飲み込みの障害は予防できるの？」がありました。日々の生活の中で飲み込みの障害が起こるリスクやサインなどを具体的に教えていただきました。また予防として運動を取り入れることはより有効との話があり、実際に運動を行ったり、嚥下体操のウェブの紹介もありました。質疑応答も活発に行われ、周りにこんな人がいるがどんな対処方法があるかなど、より具体的な質問が多いように思いました。→また29年度もミニセミナーを予定しております→ 多くの方の参加をお待ちしております。

アイブラリーとはどんなところ？

平成26年5月開院とともにオープンし、3年目を迎えようとしています。患者さんの知る権利や、治療の選択ができるように、自己決定権を支援したいという思いが形になりました。そのために医学に関する本を中心に置いてあります。患者さんに癒しの場所として活用していただけるように、四季の飾り付けなどもしております。

その一部を紹介します。→



春：あじさい



夏：七夕



冬：クリスマス



健康情報室アンケートより

「病院の図書室なので情報としての医療関係がメインとなることは、わかりますが、せっかくの図書室なので、楽しい旅行の本や、趣味の本、小説などがあれば気持ちが明るくなると思います。医療にかたよりすぎです。(司書経験者)」

ご意見ありがとうございます。当室は健康情報を提供する場所として考えられております。絵本や趣味の本は、たちばな文庫として2階・3階・4階のフロアに準備してございます。是非そちらもご覧ください。また、たちばな文庫の本をお持ちになりこちらで読んでいただくこともできます。

健康情報室アイブラリー

場所：愛知医科大学病院2階(コーヒーショップ隣)

開室時間：9時～16時(月一金)